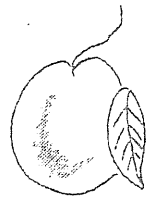


# 肱川

33・12・20発行  
肱川村

## 海外移住特集



### はじめに

本村が「海外移住事業モデル村」として県の指定をうけ、この事業の初歩である移住地の紹介、移住についての啓蒙及相談を始めて六カ月が経過しました。この間、県知事をはじめ県係官による講演及懇談会又は映画会等を実施しました結果次第に認識もたかまり、移住希望者もふえてまいりましたが、まだまだ本当に移住のを知つてもらつたと言えません。

今回特に、移住についての記事をあつめ、みなさんにお送りします。正月休みのイロリばたで、ゆつくりよんでもらい、一段と理解を深めていたとき本事業に一そうの協力を得たいものと考えます。

### 海外移住に協力下さい

村長 池田 万 千 雄

日本の海外移住は、西歴一八六八年（明治元年）ハワイへの契約労働移住に始まり、国力の伸張と共に、南北アメリカ、フィリピン、オーストラリア、満州等へ続々と進出、途中戦争で中断したが、昭和二七年アマゾンへの移住を皮切りに再開、漸次、諸国の門戸解放の拡大とともに増加し、国の重要施策として強力に進められつつあります。

皆さんが既に知つておられるように戦后、国土は狭くなり、人口は逆にふえ、海にこぼれ落ちる程人が住んでおると言うのが日本の実状です。農業経営面積を見ると、全国で戦前一戸一町一畝であったものが、戦后は八反九畝に減つております。このため、農業収入だけでは生活がむづかしく兼業農家が次第にふえて、戦前四〇％であったものが六〇％になっています。農地の利用と拡張にも限度があるとすれば、海外の適地に移住しない限り、共におれになることも考えられます。

移住について諸外国の状況を見ますと、人口のふえ方の少い所程経済の発展の進んでおる所程海外への移住が進んでおります。

例えば、過去百年間に増加した人口を一〇〇人とした時、その百人の中何人が海外へ進出したかを国毎に見ると次のようになります。

- 日本 一・一人 英国 七四・二人 スエーデン 三四・七人
- フランス 六・三人 ドイツ 二四・二人 イタリア 四六・八人

これでも分るように、日本の移住はふえる人口に比べ、土地のせまいのに比べ、経済力のないのに比べ、どこの国よりも少いことが分ります。

海外移住は ①人口の移動によつて、例えば農家の合理化に役立つ一方 ②移住者の成功によつて自分の国から品物を買うこと③更に母国へ帰つたり送金したりすることによつて、母国の発展に寄与する力は偉大なるものがあります。現在、在外の日本人は約八〇万人ですが、この人が、日本へ前の様なことでおくりこんだお金は一年間に一八三億の巨額になつております。

もち論これは、国全体が移住者からうける恩恵ですが、本人の成功と発展なくてはのぞめないことで、日本人の優れた技能と、勤勉な素質が、無限の発展力と資源に恵まれて得られる成果の偉大であることを物語つております。

しかし、資源豊富な中南米と言つても、努力なしに天国であるわけではありません。努力次第で日本で不可能な夢が実現できる可能性があると云うことです。

又受入国も、たゞ人数だけをのぞんでおるのではなく、日本人の優れた素質と技能の導入によつて、国を発展させることを考えておるわけで、今までのように、海外へは喰いつめ者が行くのだから云うことでは許可も出ません。一人一人が、日本の経済使節であると言ふ資格と自覚が必要で。

今后とも村は、県と緊密に連絡し、移住にともなう色々の問題に善処して行き、移住者が安心して渡航できるよう努力いたしたいと考えております。第二の肱川建設のため多数雄飛いたゞくようのぞんでやみません。

### 南米に第二の肱川村を

師 技 崎 藤 県海外協会

海外移住のことが最近特に関心もたれるようになり、国や県でも力こぶを入れていますが、海外移住と言えはすぐ戦前の出稼ぎ移民や、戦争中の満蒙開拓移民のように考えたり日本で事業に失敗するか食いつめ者が出て行くことのように思いこんでいる人が多いのですが、これは大変な間違いです。つまり今日の海外移住はむづかしく言いますと国際的な一つの経済活動でありまして、送り出す日本側にも受入れる中南米側にも何等かの利益がなければ移住についての話し合ひは成立しません。昔の出稼ぎ根性や受入側を無視した移住はもう今日では通用しないのであります。

ところが御承知のとおり、日本では人口問題、土地問題、或いは社会問題として海外進出を真剣に考えなければならぬ重要な段階に来ており、一方ブラジルはじめ中南米諸国では莫大な資源と広大な土地が未開発のまま眠つています。これを開発して世界の全体の発展を図るため関係政府間で話し合ひを進め、民族の移動を行うのが所謂戦後の海外移住であります。

イタリーをはじめドイツ、スペイン、ポルトガルなど、わが国同様国土の狭い国々では先を急いで中南米へどしどし移住している今日です。今や全世界の人々は、中南米の新天地に注目しているのではありません。十九世紀における徳川三百年の鎖国は、大和民族の海外進出に大きなブレーキとなりましたが、二十世紀の今日この遅れを挽回する絶好の機会が訪れたのであります。

たまたま私は昨年十月オランダの移民船、チサダネ号の移住者輸送助監督に指名され、全国から集まつた三百数十名の移住者を南米各地に輸送し引続きブラジル、パラグワイ、アルゼンチンの主な日本人移住地を視察して去る四月帰国しましたので、肱川村の皆様と紙面の許すかぎり、私の見たままの現地事情を御紹介いたします。

南米と一口に言つても熱帯、亜熱帯、温帯と広範囲にまたがっているの、簡単にこういふところと言ひ現わすのは大変むづかしいが、大体の共通点を拾つてみますと、（南米は全くの健康地）南米と言えは暑い国の代名詞のように考えがちですが、実はわれわれ日本人にとつて生活のしやすい健康地です。つまり緯度からみれば、地球の裏側いわば東隣りで南米球の気候に属しますから、日本とは夏と冬が逆です。夏太陽の直射を受けると無論暑いですが、日陰に入ると団扇や扇子が要らない程涼しく、又夜は薄布団が巻く程涼しく、充分の睡眠がとれますので、日本のむし暑さに較べると一般に男性的と申しましうかむしる凌ぎ易いと言えます。又冬は日中シマツ一枚で仕事をやりますが、朝晩はセーターやジャンパーを着込む程度に冷えます。世界の四七％を生産しているブラジルのコーヒは霜が降ると全滅しますので、真冬と言つても霜の降りない程度の気候です。

私が滞在中に、持病の喘息が南米へ移住したとたん全快したという老人や、パラグワイでは野菜に垣をして雑を放し飼いにする習慣がありますが、この雑が耕地のあちこちで産卵し、気候が良いため自然に孵化して数十倍になつた移住者に会いました。南米は全くの健康地です。

(新移住者の生活)

日本人は何処へ行つても米の飯がつきものらしく、南米では殆ど日本人が米を常食にしており、最近では現地人まで米を食べるようになりました。又日本人の手によつて味噌、醤油、日本酒等が醸造され、更に大洋漁業の進出によつて五、六百キロも奥地にある植民地でさえ生の鮭の刺身が食べられる今日です。果初類はバナナ、パイナップルをはじめ桃、柿、ビワ、ミカン等日本にあるものは何でも生産されており、米は日本金に換算して一升が都市で一二〇円、田舎で八、九〇円、バナナ一本九〇銭、ビール一本六〇円、煙草は二十本十八円から市販されている現状です。住居は自営開拓者は勿論自力で渡航後建築しなければなりません。呼寄移住はすべて呼寄人が準備しています。したがつて私の会つた四十数家族の移住者はそれぞれ移住先によつて多少の差異はありますが、殆どの人が来て本当によかつた、生活が楽だと言つており、心強く感じた次第です。

(活躍する県人)

現在中南米で活躍している県人は約一、〇〇〇家族、数千名に達していますが、その活躍ぶりは年と共に目覚ましく都市における実業界は勿論のこと、農業面でもコーヒ園をはじめ野菜栽培、花栽培、或いは養蠶、養蚕に大活躍を続けており、立派な生活をやっています。又戦後移住が再開されてから今日まで約六〇〇名近くの県人が新しく南米に移住しましたが、この人達も将来に備えてコツコツと頑張つており、愛媛県人は辛棒強いと現地でもなか／＼の好評です。そのうちの一人北条町出身の永井さんを訪ねてみますと、この人は松山工業学校を卒業した三十二才の青年で、奥さんと子供二人の家族ですから可働力が少ないため、十八才になる妹さんを同伴して昨年四月ブラジルへ移住したのです。現在サンパウロから三六〇キロ離れたパウロ市で養蠶農家に雇われていますが、最初の一年間現地事情に馴れるまで永井さんが二八〇円、奥さんと妹さんが二四〇円の日給で契約を結び、仕事や言葉に馴れると分益農といつて地主が純収益の三割、移住者が七割をとる契約に切り替えてもらい、永井さんは七〇gの養蠶と二〇〇〇羽の養蠶をやる分益農として自立することになっていきました。現在の日給は全部生活費特に食費に入れて来年からの自立に備えてまず体を造ろうと大変な張り切りようです。

このように南米では、移住した当時の日給は安い分益農とか、借地農として独立した場合安い日給で現地人が使えますので、目先のことばかり考えずあせらず、コツコツ頑張つている永井さん一家に感心しました。

(移住志願者のために)

次に今後移住される人はどの国へどの方法で移住すれば一番よいかと言う問題ですが、これは移住者の家族構成や、携行資金によつてそれぞれ異つて来ますから、簡単に結論するのはむづかしいが、雇用移住と自営開拓移住に分けて特徴をあげてみますと、渡航費は何れの場合も大人一人一〇万四千円で全額政府貸付です。雇用移住は今のところブラジル殊に南伯に限られますが、県出身者をはじめ在伯邦人の経営するコーヒ園、果樹園、蔬菜栽培、養蠶、養蠶農家などに四年契約で雇われ、その間に気候風土、食事言葉等に馴れて自立しますので最も安全性のある移住です。本県から戦後移住した人の七割は雇用移住です。

自営開拓移住はアルゼンチン、パラグワイでは土地を購入しボリビア、ドミニカ、ブラジルの一部では無償で土地の提供を受け、文字どおり自らの力で肥沃な原始林を開拓してのびのびと村造りの第一歩からはじめ、やり甲斐のある移住と言えましょう。しかし気候風土を異にする南米で極端な集約農法を身につけた日本人が、大ざつばな粗放農業に飛び込むとすべての勝手が違ひますので、思い切つた頭の切り替えが必要です。又広大な面積(二五町一五〇町)を開拓するのでから協同作業の必要な時があり、又パラグワイ国の一部のように、生産物の販路を開拓したり、入植当時の郷愁をぬぐい去るには同じ部落や村から集団で移住するのが最も好ましいと思ひます。

最近県でもブラジルに一、〇〇〇町歩の土地を購入して海外移住に積極的な手を打つことになりました。第二の脇川村を南米で建設するのは決して夢ではありません。

パラグワイ 便り

昨年高知県より集団移住した方より出身村へ送つた手紙を借つて来ましたので一部をのせませす。

私達も長い航海を終えて、五月二十五日フラムの大原始林の中へ到着しました。早くお便りをお思い乍ら荷物整理や土地の分譲に追われておそくなりました。去る三月二十二日出郷、神戸移住幹旋所生活十日間、四月二日神戸を出航して四十三日ぶりに世界三大美港の一つであるリオデジャネイロに入港致しました。さつまいもを半分に切つて置いた様なボンデスル山や砂浜に並んだ美しい高層建築など、とても日本では見られない美しい景色で、父母を始め一同始めて見る外国に目をみはりました。

更に翌々日サントスへ到着、こゝでコチや産業組合呼寄移住者青年等沢山下船し、船内は急にひつそりとなりました。こゝで六日間停泊しましたが、毎日一万トン級の船にバナナを積み込んで居る風景には驚きました。いよ／＼二十六日最後の港ブエノスアイレスに到着、思えば長い航海でしたが、映画やのど自慢、赤道祭等楽しい思い出を残してサントス丸に別れを告げ、国際列車で二十九日エンカナシヨナル市へ到着、パラグワイへの第一歩を印しました。この町は人口三〇万位ですがタクシーやバスはなくトラックを時々見受ける程度ですが、非常に発展しつつある町です。私たちの住む「フラム植民地」は自動車で二時間位で着きましたが、途中でみた作物は良く出来ており、水は随分きれいでした。又雨が降つても洪水の心配は全くないとのことです。まだ交通が不便ですので子供等は小馬で通学しています。今は内地で言えば冬ですが、入植以来二度霜をみただけで大変気候の良い処です。現地人は非常に呑気な性格で、明日喰うものがなくても日曜などは絶対仕事をしません。その反面、ドイツ人ベルギー人等は入植後十年にもならないのに永年作で相当の収入をあげており、トラックや百馬力以上もあるトラクター等を用いて大々的にやっています。

前年入つた大正町移住者は平均十二町歩位伐採しトウモロコシ、マンシヨカを作つており、現在収穫の最中で次は永年作の油桐、マテ茶、果樹等を植たいと言つています。マンシヨカは内地の甘しよに似ていて油で揚げると美味です。私達が来てから後も続々と新入植者が入つております。入植地は殆んどが森林地帯ですが草原があるので米作りをしようと現地人を使つてつき起しています。米は年に二回作れます。森林は九月下旬より伐採し十二月に焼きはらう計画です。木はあまり大きいのはありませんが、堅いことが特長でラツパーチヨと言う木等は現地人が車の心棒に使つています。

動物は野豚、鹿、はと、うずら等多くおり若い人等はよくとつております。虎も奥地には居るとのことですが、入植地附近では見ることはできません。先日現地人が私のオートバイに目を付けて欲しがつていますが、日本金にして八万円の上へ馬二頭、二〇貫位の豚十頭、子豚十頭を付けて居るので手放すつもりです。こちらは機械類が全般的に高くて、中古の自転車でも馬一頭と交換できます。

内地では田舎に居ても映画等を見る機会はありませんが、こちらにはそんな娯楽は求めることはできませんが、休みにはスポーツ等盛んです。別天地のような気持で来ることは禁物ですが、農業をするにはこんな素晴らしい所はないと思ひます。現在では大正町附近は万植が近いので、新しく四十キロの地点に入植地を準備中です。

尚眼の検査はパラグワイでは簡単でした。又手紙の検閲もありませんので心配無用です。内地ではフラムについて色々なデマが飛んでいるようですが全然心配な事はありません。御安心下さい。

後文略

一九五八年八月四日 パラグワイ 園  
エンカナシヨナル市 サンタロ農業協同組合  
矢野 豊 周

「海外移住の種類」

移住方法には色々あります

- 1 自営開拓移住  
この移住は、土地の分譲を受け自営で開拓して農業経営を行います。この移住は家族移住に限られて居ります。
- 2 雇用契約移住  
この移住は、現地の耕主と雇用契約を結んで移住するもので、契約期間中に現地の事情にもなれ、また資金もできて初めて独立する方法で、家族移住と単独移住とがあります。
- 3 呼寄移住  
この移住は、外地の親せき、知人から呼寄を受けて移住するものですが、県では外地に親せきや知人のない人のために、ブラジル県人会の協力を得て主に南部ブラジルの県出身者から、呼寄を受けてもらつております。
- 4 コチや青年呼寄移住  
ブラジル最大の産業組合で日本人が中心となつて創設したもので、組合員は六千名あり、その内日本人が八割を占めて居る。この組合が責任をもつて呼寄するもので、今までに一・五〇〇人の独身青年が移住した。
- 5 単独女性の移住  
単独女性の移住は、近親者の呼寄又は技術者以外は危険性があるもので、できる限り結婚されて移住することが望ましい。県では今まで希望者は県出身の青年を紹介して居ります。

移住者の資格

現在行われている移住は殆んどが農業移住ですが、次の資格条件が必要で、

- 1 現在農業に従事していること
- 2 永住の目的で移住すること
- 3 思想が堅実であること
- 4 犯罪その他反社会的行為をしたことがないこと
- 5 移住者はすべて身体強健で病氣及身体的欠陥のないこと
- 6 家族の構成(内容)は「呼寄移住」の場合にはむづかしい条件はありませんが、公募による場合は家族中に働き手が三人以上必要です。子供は多い方が喜ばれます。喜ばれると言うことは、行つてからの成功も早い訳です。
- 7 資金は、移住の種類によつてそれぞれ異なりますが、平均して雇用の場合三十七万円、自営の場合は、土地代及自分の生活費等で三〇万―四〇万円必要です。
- 8 コチや青年移住  
十八才以上二十五才未満の独身青年で、心身共に健康な農業経験者で、身長一・五五米、体重五〇kg以上の体格保持者であること

受入条件

移住する国や、土地によつてそれぞれ異なりますので、主なものは募集の都度村報にのせます。詳しいことは御問合せ下さい。

航海費

船賃は大人で約十一万円で全額政府から貸付される。尚荷物は一人に付大人でミカン箱二〇個位の大きさまでは無料で持つて行ける。この場合重さには制限ない。

海外移住者の数

中南米へ移住している愛媛県人は約一千家族と言われて居ますが、昭和二十八年以降に移住した国別の数は次表の通りです。

移住先国別	公募	呼寄	計
ブラジル	二六三	一七八	四四一
パラグワイ	七〇	九	七九
アルゼンチン	五	六	一一
ポリビヤ	四		四
ドミニカ	一〇		一〇
アメリカ	二		二
計	三五四	一九三	五四七

サンパウロ便り

一昨年コチヤ青年呼寄移住で雇用者として渡伯した村上定夫君から同君の弟へ送つた手紙を借りたのでのせます。

大変御無沙汰して居ます。兄は相変わらず元気で毎日鶏飼に励んでいます。早いもので、皆さんと別れて早くも一年半を過ぎてしまつたが、さぞ家の様子も変つたろうね。始めの半年位は毎日の様に日本の事を考えていたが、今ではこちらになれたせいも、こうして手紙を書く時か写真でも見る時でもなければ、日本の事もあまり考えない様になつた。でも時々日本へ帰つた夢をみる事がある。今では特に帰りたいとは思わないが、ヤハリ二―三日の旅で帰れるなら帰つてみたいのは山々だ。こちらの気候は今冬で、朝夕だいぶん寒くなつて来た。でもまだ霜は見えない。寒くなつたと言つても日本の様にはつきりした変わり目はないので、マア年中通して春と秋の様なものだ。これ以上寒くなることもなく、気候的にみれば良い処だと思ふ。しかしブラジルと言つても何しろ日本の二十三倍位もの国で、兄の住んでいる処は暑くなく寒くなく良い処だが、アマゾンの方へ行けば赤道直下で暑さのために一日で働く時間は朝晩五、六時間だそうである。また南のパラナ州へ行けば霜も降れば雪も昨年は二度も降ると言う程の寒さで、冬は日本の寒さに近い処もあるそうだ。頭張つて勉強しているだろうが英語はどうかね。将来ブラジルへでも来る気持があれば一生懸命やつてくれ。兄も言葉の勉強に頑張つて居る。おそらくお前以上だろう。

しかしブラジル語は英語によく似た言葉がたくさんある。又ブラジル語は書いたまま発音するので割合簡単だ。(中略)次は日本移民五十年祭について書こう。皆もラジオ、新聞で知つて居るように、ブラジルへ日本人が始めて渡つたのは五十年前のこと、それを記念して日本人が祭をしたわけだ。

はじめに確か五月に女優の北川町子、河内桃子が来て一週間程サンパウロで人気を呼んだ。次はいよ／＼六月には三笠宮高殿下が見え、日本人の集団移住地をまわられたり、又市内に於ける色々な行事に出られた。又日本代表として多くの知事さんが祭典参列のため見える。

産経新聞社の中南米訪問車が来る。レスリングの清美川が来る。又近く力道山が来ることになつて居る。そう／＼ピンポンの田中、萩村選手も来ている。その他こちらでは各地で祭をしたり各スポーツの試合、芸能大会、運動会などとても盛大なものだつた。兄も今ではサンパウロの町へも、一時間もバスに乗れば出られるので色々面白い行事を見に行つた。特に感心したのは、日本人が多いこと、顔々々皆んな日本人ばかりだ。三笠宮も外国へ来た様な気がしない。と度々話しておられた。

映画も大変良いものが来ている。兄の見たのは「宮本武蔵」「喜びも悲しみも幾歳月」「太陽は日々に新たなり」「忘却の花びら」など、来週から「明治天皇と日露戦争」の上映になっている。又日本語のラジオも聞けるし、「日本の本屋もあり」日本で居ると別に変らない。

次に家の事を書くかな。三月に入れた七百羽のヒヨコは天候も良かったので大変きれいに育つた。今ではトサカも少しずつのびて今月の末には卵を生みはじめて来る。又今年まだ二回ヒヨコを買う計画で、今度のヒヨコは近く七百羽来るのでもちゃん

と準備をしまつてゐる。鶏舎はバター式で長さ二〇米巾四米、中は三段になつていて一羽一羽入れるのでまるで都会のアパートみたいで、約二〇コントス（約七万円）位で出来ませう。鶏は最近値段も高くなつた。しかし餌代の方もなか／＼高く、福の神ばかりはいない様だ。卵をとる時も鶏飼いの味う特別の味だが、自は餌をやつた後で一、五〇〇羽余りの鶏が赤いトサカを動かして首を並べて餌を食つてゐるのを見るのが一番楽しみだ。

色々こちらの仕事も覚えてやつてみるが、やれば何でもできない事はない様だ。

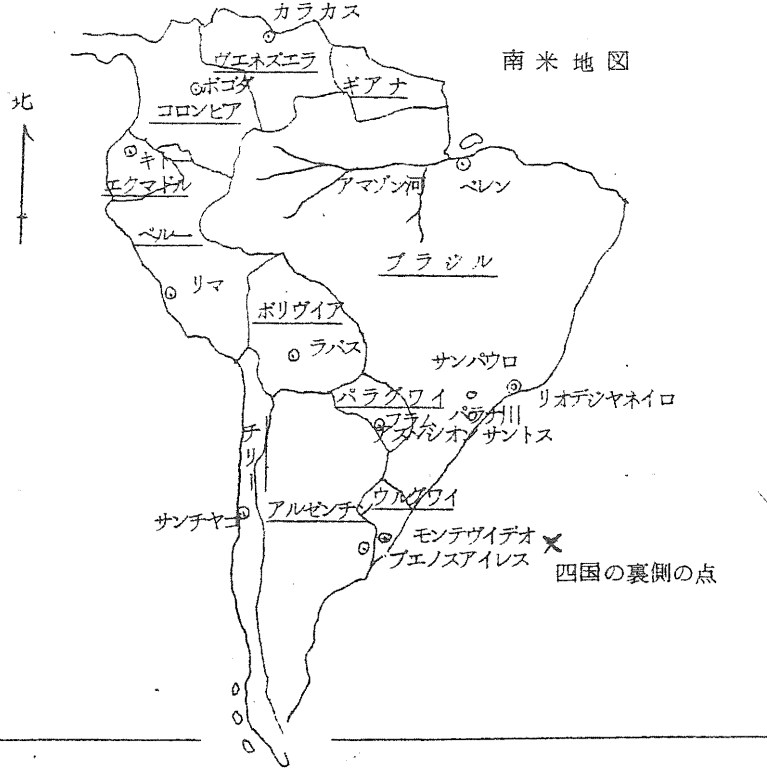
今こちらに咲いてゐる花はダリア、アオイ、ホーセンカ、グラジオラスなど色々だが、何とブラジルは良い所でダリアなどはほとんど年中咲いてゐる。花のつぼみがなくなれば地上一〇センチ位で切つておくと、又一カ月位もすればそこから出た芽が大きくなつて花が咲く。野菜も同じで、年中白菜も大根もほうれん草もできる。特に面白いのはリモネンと言うイノスミみたいなものだ。黄色くうれてゐるものもあれば、一方では青いものもある。又一方の枝では花も咲いてゐるし、つぼみもできてゐると言つた調子で、日本人の間ではバカリモンと呼んでゐる。六月には豚を一頭殺した。日本人では勝手に殺せなかつたと思うが、こちらではそんなことは何でもない。よく肥えて二〇貫位あつたらう。食べ物はは変つたものもあるが、ほとんどどんなものでも食ふことができる。

それからこちらは野菜には下肥を使わないので、生のまま食ふものが多い。サラダと言つて塩でもみ、油とリモネンのスをかけて食ふ。油も日本のように菜種油はなく落花生や棉の実から取つたものが多い。野菜類は色々名も知らないものも多いが、日本のものは大抵見る。昨日も近くの人がグユミの苗をもつて来てくれたので今朝植えておいたが、二、三年もすればなる事だらう。次にこちらの魚について書こうか。

この辺の川に居るものはバグリと言うナマズの兄弟の様なもの、タライラと言つて丁度イダ位のもの、又カラと言つて海のタコの形で、色も赤く長さ一〇センチ位のものが居るが、何れも仲々良い味だ。魚をとるにはつりもするけれどほとんど川に入つてトオジですくつてとる。日本の川のように流れが急にならないので簡単に取れる様である。又カエルで面白いのは夕方になると、オイオイオイと人間の声の様に鳴くのが居る。又日本人は大工さんと呼んでゐるが、晩暗くなつてから丁度金鍬で柱をたたく様にタンタンと鳴くのが居る。兄も最初それを聞いて誰か暗くなつてまで仕事をしているのかなと窓から顔を出して見た程だ。へびも色々な種類があるが、この地方に居るものは長く五、六〇センチ位で、毒へびもめずらしくなく、へびさえ見れば殺す事にしてゐる。ミミズも沢山いるが、特別変つたものは目や口のついたものがある。丁度アオミミズ位だが、口や目がありへびかどちらか見当がつかぬが、ウロコのない処をみるとミミズらしい。チヨウはほとんどみることがない。小鳥はこの辺は非常に多い。中でもすばらしいのはベイジャ、フロールで、とびながら花をさがしてある鳥で、密をすつてゐる間はどこへともまらぬ。カナリヤもきれいでよく見かける。ブラジルでは年中小鳥が家の近くにやつて来るので、子供達はよく子鳥をとつて遊んでゐる。カラスはいないがウルブと言う真黒い鳥が居る。これは動物のくさり肉を食う鳥で、衛生上役鳥であるからとブラジルではこの鳥を殺してはならない事になつてゐる。

そうそう昨日ヒヨコの写真をとつたので出来たら送るから楽しみに、僕もこちらへ世話になつて大体楽になつたせいか、一六貫が少し切れる位ふとつています。注（同君の移住する時の体重は一六貫に少し切れてゐた）柔道もやつてゐるので、今年中には一六貫五百位に成ると思う。柔道もやつてみると面白くこゝ二、三日は毎晩やつてゐるが、明後日サンパウロの演武場で試合がある。僕もまだ白帯だが、この試合で三級（青帯）をとつてやろうと頑張つてゐる。

では今日の手紙はこの辺で、皆さんによるしく  
七月十三日  
注 同地からの便りは、航空便で九日間かかります。  
定夫



\*\*\*\*\*

南米へ行くには、東まわりと西まわりとがあり、東まわりは日本船で横浜、サンフランシスコ、パナマを経て約四五日かゝり、毎月始め神戸から出航します。西まわりはオランダ船でホンコン、シンガポール、ダーバンを経て約五〇日かゝり、毎月中旬に神戸を出航します。寄港地では二、五日間停り、この間見学のため上陸も許されてゐる様です。

### ブラジルの白人

ブラジルは世界より三十数カ国の人が集まり、内日系人は約四十万人居ます。これはブラジルの総人口から見ると一〇〇人につき六人の割合となります。

### 県で集団移住を計画しています

県ではサンパウロ州に一、〇〇〇町歩を購入し、八〇家族の集団移住を計画しています。この土地は掠奪農法から施肥農法に移行しつつあるブラジル農業を代表する地帯で、馬鈴薯、穀物、果樹、野菜等の栽培に適しています。詳しいことは明春御知らせします。

愛媛県人会 扱呼寄移住

愛媛県出身者の新移住者呼寄希望一覽表

ブラジル國始め中南米各國に移住している県人は、戦前戦後を通じ約一千家族に達しているが、その活躍ぶりは年と共に目覚ましいものがあります。ところがその成功者のほとんどが、従来現地人を使用しての経営でありましたが、今後本県から新しく移住を希望する家族は、県出身の成功者の耕地に配耕されることとなり、最近の雇用移住者はほとんどが県人会で世話することになりつつあります。

これは県出身者の農場に数年雇われて働き、後に希望により自立して行くもので、独立の際も物心両面で親身に世話してくれ、一番安定した移住方法と言えましょう。

次に募集中の主なものを記してみます。

配耕地	農場主	出身地	現住所	経営内容	呼寄家族	希望単身	呼寄条件
玉井耕地	玉井豊信	松山市	奥ソコクヅナ ノボプロミッソン	コーヒ園	2		家族構成はブーグレ耕地等計画移住に準ずるか
藤崎耕地	藤崎卯太郎	松山市 西垣生	プロミッソン アンチニヤ植民地	"	5		パトロンは何れも山間僻地で育つた家族を歓迎している
亀岡耕地	亀岡与吉	五十崎町 天神	"	"	2		パトロンはタクシー業を営んでいるので、コーヒ園をまかせる有能な家族を大至急希望 単身は松商卒業の野球を多少知っている真面目な青年(パトロンは松商卒)
丹 "	丹 俊夫	大保木村 黒瀬	パラナ ロンドリーナ	"	3		すべて計画移住に準ずる
菅田 "	菅田 武	低部町	"	"	2		
川上 "	川上 重善	大三島町	パラナ アサイ植民地	"	5		
宇都宮 "	宇都宮 万次郎	三瓶町 (旧双岩)	"	"	2		
藤原兄弟 "	藤原七郎氏 外3兄弟	三芳町 平木	"	"	5		
寺部 "	寺部 正行	日吉村	パラナ ウライ市	工職人 綿・ハツカ	5		ブラジルの竹でカゴ造りの出来る竹細工職人で農業の経験ある家族
続木農場	続 正	土居町 野田	プフルデンテ 郊外	馬鈴薯 馬鈴薯	2		パトロンは松崎県議の実兄 農建隊にいる青年を送出するに適當
松崎農園	松崎 卓四	西海村	ボンブイヤ	馬鈴薯 陸稻	3	5	
百合農場	百合 栄一	川之石町	サンパロウ州 ソロカバナ	馬鈴薯	3		
渡辺 "	渡辺 重生	伊方町	サンパロウ州 イビニューナ	馬鈴薯 陸稻	5		何れも家族構成の良い家族
長橋 "	長橋 智	今治市	サンパロウ州 バストス	養鶏	1		
白石果樹園	白石 吉雄	松山市 西垣生	サンパロウ州 ピンドラマ	モモ柿ビ ワ・ミカン	5		
乗松 "	乗松七兵衛	松山市 三津	"	"		2	野球青年手続中(戸籍謄本を早く送られたい)
小山農場	小山 義雄	低部町	サンパロウ州 スザノ	野菜(特) ついで(野菜)	8		必ず働手3人以上ある家族
山内 "	山内 伝丸	三芳町	サンパロウ 郊外	野菜(特) ついで(野菜)	5		
ウライ体育文化協会	灰田 巧	ブラジル人	パラナ州 ウライ市	野菜の出生 来(二世) 年の指導	1		ウライ市の二世青年二七〇名程の日本語と情操教育を行う二七〇才までのスポーツマン希望
沖永農場	沖永保四郎	長浜町	サンパロウ 郊外	花造り 散髪屋(散髪師)	1	5	理容師は沖永氏がケンパウロで開業中の床屋に行く若夫婦好ましい ○薬師寺君の妹。○沖永氏のオイ

おわりに

海外移住は、移住するしないにかかわらず、みんながその意義と実状を認識して戴かなくては本當に進みません。今後も紙面の許す限り情報も流す予定です。又来春実状等を照会した写真の展示も行う計画です。この海外移住の相談や手続は県では一農地拓植課の県海外協会、村では経済係で行つて居りますから、希望者はどしどし御相談下さい。